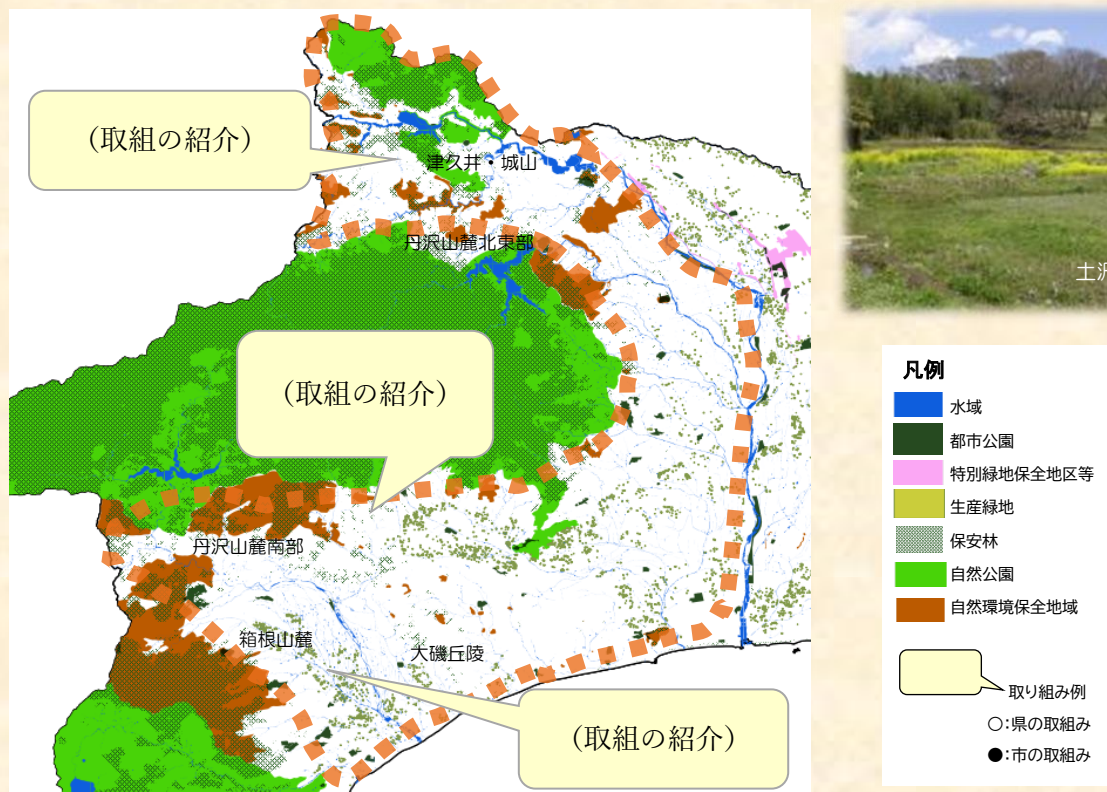


県土のエリアに即した取組

※ 写真やイラストは仮のイメージ

山麓の里山エリア



生物多様性の保全を含めた農業の有する多面的機能と、それを支える農林業の営みを維持するため、里地里山の保全等の促進や地域における農地等保全の共同活動への支援、野生鳥獣との棲み分けに向けた対策などを進めます。

取組の方向性

- 里地里山条例に基づき、地域住民等による保全等の活動を支援するとともに、里地里山にふれあう機会の提供等を行い、里地里山の多面的機能*の発揮と次の世代への継承を図ります。
- 生物多様性の保全を含めた農業の有する多面的機能を十分に発揮させるため、地域における農地、農業用施設等の保全のための共同活動への支援や、環境保全型農業を推進します。
- 人と野生鳥獣の棲み分けを図るため、地域が主体となっていく鳥獣の捕獲や防護柵の設置、藪刈り等の集落環境整備などを組み合わせた鳥獣被害対策を支援します。
- 市町村や森林所有者等による森林整備への支援、県立自然公園の施設整備、里山の自然環境を生かした都市公園の整備・運営などを進めます。

(イメージ)



<里地里山の保全等の促進>

里地里山の有する多面的な機能を発揮し、次の世代へ継承するため、里地里山保全等地域の選定や、保全活動を行う団体への支援を行い、里地里山の保全、再生及び活用を促進します。

また、里地里山の保全等に取り組む団体と企業、大学等との連携強化を促進するとともに、都市住民等の里地里山の保全等への参加や県民理解を促進します。

<農業の有する多面的機能の発揮の促進>

農業の有する多面的機能の発揮を図るため、地域ぐるみで行う農地や農業用水、農道等の適切な維持・保全活動や、山あいの条件が不利な地域等における農業生産活動への支援を行います。

また、堆肥を使用した土づくり等を通じて化学合成農薬や化学肥料の使用を減らし、環境への負荷を軽減した環境保全型農業を推進します。

<野生鳥獣との棲み分け>

農業被害や生活被害、人身被害など野生鳥獣との軋轢を軽減していくため、ニホンジカとニホンザルの管理を含めて、地域が主体となって取り組む鳥獣の捕獲や追い払い、防護柵の設置、藪の刈り払い等の対策を支援します。

また、特定外来生物に指定されているアライグマについて、農業被害等の防止や生態系への影響の軽減を図るため、「アライグマ防除実施計画」に基づき市町村と連携して捕獲などの対策に取り組みます。

<地域特性に応じた森林整備・自然公園の施設整備・都市公園の整備の推進>

市町村を主体とする水源林の確保・整備や森林所有者等が行う森林整備への支援などを行うとともに、県立陣馬相模湖自然公園の施設整備と維持管理を行います。

また、山麓の里山の自然を生かした(仮称)山北つぶらの公園などの都市公園の整備や管理運営を行います。

地域の取組紹介

○ 秦野市では、～

○ 厚木市では～

県の実施だけでなく、市町村や団体等ほかの主体が実施している取組についても紹介する。

※書き方は、静岡県「ふじのくに生物多様性地域戦略」を参考とする。

(3) 山麓の里山エリア

生物多様性の保全を含めた農業の有する多面的機能と、それを支える農林業の営みを維持するため、里地里山の保全等の促進や地域における農地等保全の共同活動への支援、野生鳥獣との棲み分けに向けた対策などを進めます。

取組の方向性

- 里地里山条例に基づき、地域住民等による保全等の活動を支援するとともに、里地里山にふれあう機会の提供等を行い、里地里山の多面的機能の発揮と次の世代への継承を図ります。
- 生物多様性の保全を含めた農業の有する多面的機能を十分に発揮させるため、地域における農地、農業用施設等の保全のための共同活動への支援や、環境保全型農業を推進します。
- 人と野生鳥獣の棲み分けを図るため、地域が主体となっていく鳥獣の捕獲や防護柵の設置、藪刈り等の集落環境整備などを組み合わせた鳥獣被害対策を支援します。
- 市町村や森林所有者等による森林整備への支援、県立自然公園の施設整備、里山の自然環境を生かした都市公園の整備・運営などを進めます。

主な取組

＜里地里山の保全等の促進＞

里地里山の有する多面的な機能を発揮し、次の世代へ継承するため、里地里山保全等地域の選定や、保全活動を行う団体への支援を行い、里地里山の保全、再生及び活用を促進します。

また、里地里山の保全等に取り組む団体と企業、大学等との連携強化を促進するとともに、都市住民等の里地里山の保全等への参加や県民理解を促進します。

参考：静岡県の地域戦略から抜粋（地域別個別計画のページ）

第5章 地域別個別計画

第4節 浜名湖



浜名湖は淡水と海水が入り混じった汽水の環境であるほか、干潟、藻場等の多様な環境があります。また、アサリや二ホンワナギ等の水産資源を活かした産業も盛んです。

- 干潟、ヨシ原、アマモ場等の環境を保全することが必要であり、その際には渡りをとする鳥獣の中継・生息地としての観点も必要です。
- 湖沼や湿地の保全等を図る必要があります。
- 浜名湖への理解と関心を高めるため、意識啓発や環境保全団体のネットワーク化が必要です。
- 国等と連携し、資源保護に配慮したワナギ産地への認証を進めるほか、親ワナギの放流等地域の取組を継続する必要があります。
- ツメタガイの駆除のほか、稚魚放流を目的とした天然資源等のアサリ保護活動を継続する必要があります。
- 近年、アカエイが湖内で増加しており、その実態調査や対策の検討を行う必要があります。
- 浜名湖への理解と関心を高めるため、意識啓発や環境保全団体のネットワーク化が必要です。

具体的な取組

【浜名湖の豊かな自然環境の保全】

- 「静岡県立自然公園条例」による浜名湖県立自然公園の保護・管理、敷内区域の指定及び関係等の行為規制を行い、浜名湖の自然環境を保全します。【自然保護課】

【浜名湖の環境保全に関する啓発】

- 「はまなこ環境ネットワーク」の活動促進や、浜名湖クリーン作戦の実施により、浜名湖の環境を保全します。【自然保護課】

【浜名湖に流入する河川の水質維持】

- 下水道、合併処理浄化槽、農業・漁業集排水施設の整備や適正管理等により、生活排水による生物多様性への影響を低減します。【生活排水課・環境対策課・生活環境課・水産資源課】
- 特定事業場への立入検査や監視等により、事業活動による水質汚濁、地下水汚染、土壌汚染の発生を防止し、生物多様性への影響を低減します。【生活環境課】

【二ホンワナギやアサリ等水産資源の管理】

- 漁獲されたワナギのうち、産卵時期が近いと思われる大型ワナギの買上取組を実施を進めます。【水産資源課】
- ワナギ養殖業の許可制に伴いシラスワナギの投入量を抑制します。【水産資源課】
- 採捕されたシラスワナギの県内養殖業者への供給、及び採捕許可数量の県内管理量への制限により、シラスワナギの採捕量を抑制します。【水産資源課】

具体的な取組

【二ホンワナギやアサリ等水産資源の管理】

- 漁業者が自ら行っているアサリの天然採捕や人工増殖事業を推進し、浜名湖のアサリ資源を安定して増やします。【水産資源課】
- アサリ資源を保全しつつ漁獲する漁業者の取組を支援します。【水産資源課】
- 漁業者が行うアカエイの駆除方法や駆除したアカエイの活用方法の検討に参画し、アカエイの個体管理の充実を目指します。【水産資源課】

【関係事業者に対する保全指導の要請】

- 関係事業者と自然環境保全条例に基づく自然環境保全協定を締結し、生息状況の正確な把握と、それに基づく必要な環境保全のための措置を求めていきます。【自然保護課】

地域別個別計画

■「はまなこ環境ネットワーク」による活動

浜名湖地域で活動している環境保全団体等の交流を促進することを目的に発足した「はまなこ環境ネットワーク」では、会員間の連携と交流促進を図るための主体交流会の開催等、住民等による保全活動の促進に、関係者の環境保全活動を推進しています。

■アマモ場の保全

浜名湖に広く分布するアマモを保全するため、「AMF法」はもとより「AMF法」ではアマモの養殖等を実施しています。参加者は、アマモが魚類等の生物の繁殖場や生息場所として重要な場所であることを認識し、この環境を守り伝えることの重要性を学んでいます。

■浜名湖クリーン作戦

浜名湖周辺の自治体や事業者等で組織する「浜名湖の水をきれいにする会」では、毎年6月に一斉清掃（浜名湖クリーン作戦）を行っています。

■ヌートリアの駆除

浜名湖周辺では近年、特定外来生物のヌートリアが確認されています。静岡県では、湖沼に河川長等管理組合へ駆除を依頼し、駆除活動を行っています。

■浜名湖体験学習施設「ウオット」での体験学習

浜名湖体験学習施設「ウオット」は、静岡県水産技術研究所浜名湖分場の無形施設です。生体と直接ふれあうことにより、浜名湖の水の生物とその生態環境について学び、浜名湖の豊かな資源に対する理解を深める場を提供しています。

■浜名川の浄化

湖沼内を流れて浜名湖に注ぐ浜名川では、下水道の普及のみならず、排水をきれいにする会や地域住民等による「川（河川）清掃活動」等を数回実施する活動等が実施され、浜名湖の豊かな資源に対する理解を深める場を提供しています。

■浜名湖の浄化

水質汚濁が深刻となっている浜名湖では、「浜名湖水質浄化（水質浄化）」に基づき、湖沼における水質汚濁の抑制を促進するとともに、自然浄化に基づく水質浄化等、流域一体となった総合的な水環境の向上に向けた取組を推進しています。